

# 口と全身の健康 関連探る

## 弘大と小林製薬、研究講座



共同研究講座を開設した（左から）弘大の廣田研究科長、福田眞作学長、小林製薬の大協常務執行役員、西川賢弥ビューティー&オーラルケアカテゴリー長

弘前大学と小林製薬（本社大阪府）が18日、共同研究講座「オーラルヘルスサイエンス学講座」の開設式を弘大で行った。弘大が弘前市岩木地区で約20年間にわたり行っている大規模健

診で集めた膨大なデータを活用して、口の状態と全身の健康との関連を探る。最近の研究で、歯周病など口の中の環境が、認知症や動脈硬化などと関連している可能性が指摘されてい

る。同講座では、弘大が健診で集めた延べ約2万人分の口腔細菌、滑舌機能などのデータと、同社の技術を合わせて、健康寿命延伸につながる新たな製品やサービスの開発を目指す。期間は今年2月から3年間。

開設式に臨んだ同社の大協藤人常務執行役員は「延べ約2万人というデータには大きな価値がある。ぜひこの講座を通じてイノベーション（革新）を起こしたい」と述べた。弘大大学院医学研究科の廣田和美研究科長は「小林製薬の製品はネーミングが斬新。この講座の研究でもぜひ斬新な成果を出してほしい」と話した。

（伊藤ほなみ）